



田村 剛哉ちゃん

上今泉、田村忍・友野さんの長男=1歳1カ月



百木亜理沙ちゃん

東柏ヶ谷、百木彰・ゆかりさんの長女=1歳2カ月



久住呂友啓ちゃん

中新田、久住呂一洋・浩子さんの長男=1歳2カ月



川崎 新ちゃん

杉久保、川崎肇・智子さんの2男=1歳



鈴木 馨太ちゃん

国分南、鈴木貴晶・智子さんの長男=1歳



大久保多恵ちゃん

河原口、大久保正徳・由美子さんの2女=1歳



高橋 環ちゃん

杉久保、高橋修・善美さんの長女=1歳1カ月



小野里郁彦ちゃん

上今泉、小野里昭彦・あさみさんの長男=1歳

このコーナーに掲載を希望する方は…電話で広報広聴課(内271)へ。ただし、申し込み時点で1歳未満の赤ちゃんに限りまして、お早めにごぞ。なお、申込数が多く掲載できない場合もあります。



▲年金に真剣な相談

10月23日~27日、年金相談が市と社会保険事務所の共催で行われました。約130人が訪れて、専門家のアドバイスを受けていました。



▼訓練の成果競う

10月21日「第12回海老名市屋内消火栓操法大会」が、市役所駐車場で行われました。出場した市内19の事業所が、日ごろの訓練の成果を競いました。



▲姉妹都市から学校訪問

10月31日、宮城県白石市から2人の中学生が海西中学校を訪れ、ふるさとや学校生活の様子を紹介したり、合唱などで交流を深めました。



▷場所 JR海老名駅北側 ▷撮影日 10月15日 厚木市在住・奥村博史さん撮影

みなさんからの作品

海老名の風景 ⑪

▶音大生の歌声を鑑賞

10月31日に文化会館で開催された、今泉中学校の合唱コンクール。発表会の後は昭和音楽大学学生による合唱も披露され、生徒たちは心にひびく歌声に聴き入っていました。



数字で見る海老名 ⑱

80

第1回調査は大正9年

国勢調査では、調査員が各家を訪れて調査票を配布・回収します。第1回調査当時、任命された調査員は羽織袴の正装に着替えて調査にあたったといわれています。左の写真は、友田政弘さん(国分寺台在住)が所蔵していた、第1回国勢調査記念はがきの裏面です。「祖父が調査員をしたときの記念品と聞いています」友田さん。よく見ると、「国民生活の實状を審らかにし善政の基礎を作るに在り」の一文が、国勢調査の目的は、今も変わらずに受け継がれているのです。

行政の基礎資料作りに貢献

5年に1度行う国勢調査は、人口・世帯・産業構造などの「国の情勢」についての大切な調査です。10月の第17回調査も、みなさんの協力が無事に行うことができました。大正9年(1920年)の第1回国勢調査から数えて、今年はずっと80年目に当たります。全国規模で初の近代的統計調査となった第1回国勢調査の結果を見ると、当時の海老名村の人口が5100人(917世帯)・有馬村が3792人(653世帯)で、両村を合わせても人口は現海老名市の10分の1以下、世帯数は30分の1に過ぎませんでした。このときの調査事項は現在よりも少なく、氏名や世帯主との続柄、職業などの8項目。調査を実施する側も対象となる側も不慣れだったため、調査事項の数にも限界があったようです。



1面の写真撮影の時に、米谷モニター夫妻に実験についての感想をお聞きしたところ、システムへの大きな関心と期待を感じました。

編集後記

来年1月からの新実験も、より多くの人や事業所の参加で、課題や問題点を解決した、未来の交通に期待がかかりますね。(大)